

令和2年7月1日

社会福祉法人みどり会



園長 山崎 恵美



ようこうだより 7月

空からの雨シャワーをいっぱい浴び、木や草、花、畑の野菜もぐんぐんと大きく緑鮮やかに伸びています。園庭の茂みを覗くとカエルやカタツムリ、バッタたちも雨の恵みを受け、のんびりと気持ちよさそうに過ごしています。そして、子どもたちは、雨の降る日には『雨降り散歩』に出かけ、雨があがればダイナミックな『どろんこ遊び』に夢中です。ポツポツ、しとしと、ザーザー…いろんな雨の音に、じっと耳を傾けると気持ちが落ち着きます。子どもたちと空を見上げ、もくもくとした雨雲が模様を生みながら動くのをながめたり、雨雲の間から光が差す瞬間を見つけたりと雨の日もなかなかいいものです。

梅雨が明ければ、いよいよ本格的な夏がやってきます。子どもたちの体調や衛生管理に気をつけながら、今月も思いっきり体を動かして元気に楽しく過ごしたいと思います。

プール・水遊びについて

子どもたちは水遊びが大好きです。ようこう保育園の園庭でも、あちらこちらで水の感触を求め無我夢中になって遊んでいます。水は子どもたちの一番身近にある素材で、どれだけ触れても飽きることがないほど魅力的です。何よりも、汗ばむ暑い季節は水の冷たさに触れることほど“気持ち良い”“心地よい”ものはありません。水面をピチャピチャと叩くとはじく水の音。流れ落ちる水滴の光は反射してキラキラ、ユラユラと虹色に輝き「きれい!」「ふしぎ!」と感じることでしょう。土と同じように形も自由自在に変わります。子どもたちはバケツや大きいタライ、ペットボトル、小さいカップなど、いろんな器に水を入れたり出したり何度も繰り返し楽しめます。蛇口でいっぱいの水を汲んだ重いバケツやボウルを一生懸命、自分一人で運びます。ジャーッ!と水をひっくり返しては満面の笑みを浮かべ“やったー”と言わんばかりです。足腰や腕、指も知らず知らずのうちに力強くたくましくなっています。こうして五感を通し、自然物と接していく中で様々な体験・経験を重ね認識も深めていきます。

本年度は、新型コロナウイルス感染を避けるために、水遊びの予定でしたが、**厚生労働省より、保育所におけるプール活動を行う際、「遊泳用プールの衛生基準に従い」遊離残留塩素(水中に投入された殺菌力のある塩素)濃度が適切に管理されている場合、プールの水を介したリスクは低いとされていることから話し合いを重ねた結果、感染症対策を徹底した上でプール遊びをすることといたしました。詳細につきましては、「プール遊びのお知らせ」を後日、早急に配布いたします。**衛生面、安全面に十分努めてまいりますので、保護者の方のご理解ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

暑い夏の間、水の感触を味わい、心も身体も解放し「気持ちいいね!」と友だちと共感し合える体験が、子どもたちの豊かな成長につながってくれることを願ってやみません。

7月～8月 行事予定

- 7月7日(火) 七夕
- 7月13日(月) 内科検診《1》
- 7月22日(水) 年長キャンプ
- 7月中旬 プール開き
- 7月16日(木)～8月28日(金) 個人懇談(希望者のみ)
- 8月5日(水)夏まつり※子どものみで平日保育中に行います



→裏面につづく

<雨上がりの園庭でどろんこ遊び>

～こころの育ち～

登園自粛で保育園生活からしばらく離れていた子どもたちも6月から顔を合わせ、にぎやかに楽しく過ごしています。新型コロナウイルスにより世界中の人たちが今までに経験したことのない不自由さを強いられました。今もなお、人と人の距離をとる生活習慣 “人と離れて…密を避けて…”といった思いがいつも頭の片隅に浮かぶのではないのでしょうか？

“みんなと一緒にいることや、大好きな人がそばにいることが当たり前ではなく、本当に幸せなこと”だと、あらためて感じさせられました。そして、子どもたちにとって“みんなと一緒に遊ぶこと、話すこと、食べること…は楽しくて面白い！”そんな思いが、言葉にできなくとも、友だちといっしょにいる時の溢れる笑顔や嬉しくて思わずピョンピョン飛び跳ねる姿を見ればよくわかります。

生まれたばかりの赤ちゃんは、たっぷりの愛情を注がれ気持ちよさや喜びを味わうことでお家の方との信頼感をはぐくみ愛着関係（＝甘えられる安心した関係）を深めていきます。また、周りの人にも大切にされることで少しずつ安心して自分の世界を広げていきます。そして、次第に同じくらいの年齢の子に興味関心を示し『友だち』を求め始めます。

自分自身でもない、大人とも違う『友だち』の存在…一緒に楽しく遊んでいても、時にはお互いに“自分”の思いを主張し合うことも出てきて、思い通りにならないこともあります。嫌な時は「いや！」と言えることも必要になってきます。子どもたちは、そうした経験を重ねながら相手の思いに気づき想像や理解ができるようになり、コミュニケーション能力を高め社会性を身につけていきます。

6月のある日の午後、0歳児どんぐり組の保育室から園庭をながめながら歌をうたっていました。前日の雨が上がり、晴天で真っ青な空が広がっていました。「キンキンきれいな夏の空 とおくの とおくをよびましょう おーい！」その声を聞いて、園庭にいた子どもたちが気づいて手を振ってくれました。窓まできてのぞき込む子や、優しく頭をなでてくれる子もいました。そのうち、1歳児だけのご組の子どもたちがヒメジョオンやしろつめくさの花を摘んできて、やっと背が伸びて手が届くようになった窓のサンにおいてくれました。そのかわいい花たちを受け取ったどんぐり組の子どもたちは、無心に興味深く触ったり見つめたりしていました。

ゆとりをもって見守っていると、こういった光景を園のいたる所で見ることができます。この日もほんの数分間のできごとでしたが、小さいながらも、子どもたちの心の育ちが垣間見え幸せを感じたひとときでした。「お花をあげて」と大人から言われたわけでもなく、子どもたち自身が直感で考えしてくれたことです。以前に自分がしてもらって嬉しかった経験が他の子を思う優しい姿にさせるのでしょうか。もしかしたら、大人の後ろ姿や何気ないつぶやき、言動を見て真似ているのかもしれませんが。そういった自然でやさしい子どもの心の成長を見るたびに感動をおぼえます。“人と人がかかわり合って生きていくことの素晴らしさ”を子どもたちに教えてもらっている日々です。



～お知らせ～

- 小林美紀先生が6/1～産休に入りました。
- 牛島芳恵先生が7/6～育休から復帰します。
- 山下和恵先生が7/1～入職します。
- 石川美帆先生が7/10～入職します。